資料２

養父市地方創生のための
意見集約

作戦会議
事業検討チーム　　P1～P4
各種団体　　・・・・・　P5～P13
タウンミーティング　・・・・　P14～P19

「結婚と子育て」意見一覧

作戦会議	
・母親同士のネットワークを強化⇒子育て支援体制	レ
・昔あった農業授業を復活し特区と絡めて全国へアピール⇒ふるさと教育・情報発信	レ
・自然を活かした教育で都会からの留学生（母子又は子のみ移住）を呼び込む⇒情報発信	レ
・子育てをする母親へのサポート⇒子育てしながら働く、産後の仕事復帰、外国人の母親への支援、情報共有できる場	レ
・総合学習で地域の特色を活かした授業⇒赤米、コウノトリの放鳥、中学生の授業で6次産業化の実践等	レ
・子どもの頃から結婚意識の醸成⇒独身者の減少	レ

事業検討チーム	
・ふるさと意識の醸成⇒ふるさと教育	レ
・家族や地域との関わり⇒ふるさと教育	レ
・中2のトライやるウィークで農林業を体験させる⇒ふるさと教育	レ
・細かい施策（子育ての補助等）⇒分かりやすい施策（3人目は市が育てる位のつもりで）	レ
・赤ちゃん全件訪問をアピール⇒情報発信（他市町に誇れる）	レ
・大学進学など経済面を考えると少子化（消極的）になる傾向⇒奨学金制度の充実	レ
・妊婦へのフォローが必要⇒八鹿病院の充実	レ
・母親の声⇒医療体制の不安、休日診療の情報を明確にする⇒八鹿病院の充実	レ

「交流と定住」意見一覧

作戦会議	
・養蚕で交流を創出⇒養父市を支えてきた産業の復活	レ
・親子で農業体験⇒養父市への移住	レ
・外国人に5～10年位ホームステイしてもらう⇒海外へ向け情報発信（外国人団体旅行者を呼び込む）	
・仙人バンク≒カントリーマイスターテスト⇒定住・交流等外部の人材との架け橋となるキーパーソン	レ

事業検討チーム	
・地盤が強固であること（住むには最適）をアピール⇒情報発信	レ
・市内に高校が3校ある⇒教育の充実（選択）	レ
・空き家バンクの取組みをうまくアピール（問い合せの60%が20・30代）⇒情報発信	レ
・外国人団体旅行者を呼び込む⇒外国人が魅力に思う観光資源の発掘	

「安心・安全」意見一覧

作戦会議	
・東洋経済の住みやすいまち全国13位なのでもっとアピール⇒情報発信	レ
・医療機関、介護施設の充実をアピール⇒情報発信	レ

事業検討チーム	
・元気な高齢者（長寿）のまちをアピール⇒情報発信	レ
・介護保険料が県下一高いがその分サービスが手厚い（老後の暮らしやすさをアピール）⇒情報発信	レ

「しごと（雇用・産業）」意見一覧

作戦会議	
・養父市の強みは観光と農業⇒6次化の推進	レ
・特区をサポート⇒参入事業者と農業従事者のマッチング	レ
・農業、畜産、醸造などを資源にする⇒産業の創出	レ
・起業するための学校（研修等）を支援する体制づくり⇒起業を推進	レ
・中高生への市内企業（職種）のアピール⇒情報発信	レ
・若いUターン者の受け入れ体制の強化⇒情報発信	レ

事業検討チーム	
・雇用（仕事）のマッチングを支援⇒企業への支援	レ
・若い女性の雇用に対する支援⇒若い女性を増やす	
・男性育児休暇の取得率の向上と女性が産後働ける環境の整備⇒企業への支援	レ
・養父市に住んで都市部で仕事⇒二地域居住（妻子のみ定住し、夫は週末に帰宅）	
・市役所・病院でUIターン・高卒採用枠⇒人口・世帯増加に期待	レ
・一次産業（農林業）で雇用の場を増やす⇒起業への期待	レ
・医療・福祉の雇用確保⇒八鹿病院、福祉施設の充実	レ
・特区を活かし6次産業化を推進する⇒農業の産業化	レ
・就学後に「農業をする」という仕組みづくりと受け皿となる組織（会社）の育成⇒企業への支援	レ
・食と農と観光を融合した産業振興⇒融合による弱点を補う	レ
・U・Iターン者への就業奨励金⇒個人への支援	レ
・U・Iターン者を雇用⇒企業への支援	レ
・技術革新が期待される産業の発掘⇒産業の活性化	レ
・ICT（情報処理・情報通信分野の関連技術の総称）産業を育成⇒立地にとらわれない	レ

養父市創生に向けた意見交換会各種団体名簿

団体	実施日	参加人数	備考
①養父市いずみ会	7月16日	51	市長参加
②選挙管理委員会	7月16日	4	
③精神保健ボランティアグループ	7月21日	20	
④子育て広場たんぽぽ（関宮）	7月22日	9	
⑤公立八鹿病院	7月22日	60	市長参加
⑥PTA（９小学校） PTA（４中学校） 保育園、幼児センター、こども園保護者会	7月28日	46	
⑦体育協会 文化協会 スポーツクラブ21	7月30日	51	
⑧日の出通商㈱食品カンパニー但馬醸造所	7月31日	5	
⑨社会福祉協議会主催　そよ風（養父）	8月3日	19	
⑩介護予防サポーター「八鹿」	8月4日	11	
⑪若手農業者（5Hやぶ＋若手認定農業者）	8月4日	7	市長参加
⑫商工会	8月24日	35	市長参加
⑬やぶ市観光協会	8月26日	6	
⑭商工会青年部	調整中	－	
		324	

「結婚と子育て」意見一覧

①養父市いずみ会	
・昔はゲームが無く、川や山の自然の中で遊んでいたが今の親たちは危険だからと過保護になっている	
②養父市選挙管理委員会	
・子育てと教育にはお金がかかる	
・大学に行ったら地元に帰ってこない	
・PTAの役員が負担	
・子どもを就学後に地元に返すには幼い頃から言いきかすことが肝心	
・子どもを地元に残すには但馬からださないことが重要なので、千人規模の大学を但馬につくる	
・お見合いは本人同士だけでなく親同士もすればいい	
・町ぐるみでの子供の教育	
③精神保健ボランティアグループ	
・八鹿病院は出産ができないと勘違いされている	
④子育て広場　たんぽぽ（関宮）	
・子どもが遊べる場所が少ないので徒歩や自転車で行ける距離に公園をつくる	
・八鹿病院の小児科や産婦人科の存続が不安	
・関宮では豊岡病院より鳥取の病院での出産が増加	
・産後で職場復帰をいわれているが、子どもの熱や夜勤があるため復帰しにくい	
・各施設の赤ちゃんのおむつを替える場所が分かりにくい	
・和田山のイオンには授乳スペースに乳児用の身長計や体重計を備えてあり、便利でこういう場所があれば母親同士の交流の場にもなる	
・子育て広場の開催日が少ないので、曜日を固定せずいつでも行ける場にしてほしい	
・不妊治療費の補助拡大	
・医療機関の休日診療情報発信の徹底	
・子育て広場に保健士、栄養士、心理士等がいれば充実	
・市内でも子育て広場の回数や施設環境に差がある	
・両親と同居してても子守をしてもらえるとは限らない	
⑤公立八鹿病院	
・仕事と出産・子育ての両立できる施策を考える	
・仕事中に子どもが体調不良になっても預けられる病児保育があればいい	
・看護師は夜勤があるので24時間安心して預けることのできる保育所があればいい	
・以前よりも学童保育の時間が延長されているのはいいことだが6年生までみてもらえないか	
・保育所職員も早出早退すれば、保育の時間が有効に使えるのでは	
⑥保育園、幼児センター、こども園、小中学校の保護者	
・縁結び世話人に登録したが1人では難しく世話人同士の情報交換が必要で連携のとれる体制づくり	
・子どもが地域を誇りに思うには親も誇りをもつ必要がある	
・学童クラブを土曜日も開所	
・地域コミュニティがしっかりすれば子供は大学卒業後に地元にかえってくると思う	
・大人が子どもの前で養父市のマイナスイメージを口にしない	
・自治協で子どもたちが学童のように1日過ごせるような仕組み	
・児童手当について通常受給するか積立てて一括受給するかなど選択制にできないか	
⑦体育協会、文化協会、スポーツクラブ21	
―	
⑧日の出通商㈱食品カンパニー但馬醸造所	
・高校卒業後、都会へ進学した人はなかなか帰ってこない	
・一度都会に出た人が地元に帰ってくると都会に未練はあるが、暮らすうちに同居のありがたさや楽さが分かる	
・婚活イベントがあるが、結婚というと参加しずらいので、友達を増やそうくらいのネーミングにする	
・市役所が同窓会の開催の段取りを支援してくれないか	

「結婚と子育て」意見一覧

⑨子育てサロンそよ風	
・1人の時間がほしいが、子どもが寝た時しかない	
・昼間に子どもを一時預かりしてくれる仕組み	
・養父市にきて間もないが産婦人科がなく豊岡まで行かないといけないのが不便	
・屋内の子どもたちの遊び場（平日午後からでいい）とその情報がほしい（公民館など解放できないか）	
・幼児センターが終わった後から夕食までの間の遊べる場	
⑩介護予防サポーターようか	
・養父市に大学をつくる	
⑪若手農業者（5Hやぶ＋若手認定農業者）	
報告書作成中	
⑫養父市商工会	
・別宮の棚田を維持するために中学生のトライやるウィークや但馬農業高や八鹿高校の生徒が農業実習として田植えや稲刈りをしてはどうか	
⑬（一社）やぶ市観光協会	
―	
⑭養父市商工会青年部	
意見交換会未	

「交流と定住」意見一覧

①養父市いずみ会	
―	
②養父市選挙管理委員会	
・新しい空き家は少し改修し活用	
・若い人が親と同居しないのは干渉されたくないのでは	
③精神保健ボランティアグループ	
・人間関係と最低限のライフラインがあれば過疎でも幸せに暮らせる（ブータン王国のような「幸福」という別の視点が必要）	
・お金があれば医療の充実した場所に引っ越したい	
④子育て広場　たんぽぽ（関宮）	
・空き家バンクを利用し、母親同士の交流の場としてママカフェができればいい	
⑤公立八鹿病院	
・同級生をUターンさせるには同窓会を開いて故郷の良さをアピールするのが有効	
・養父市はイベントが多くあるが参加者が少ない	
・分譲地の単価は都会から見れば格安	
・養父市の観光には目玉がないと思える	
・養父市は住みやすい町だと思うが、買い物は他市町でしている	
⑥保育園、幼児センター、こども園、小中学校の保護者	
・Uターンしてきたが、昔と比べるとコンビニや高速道路の開通など随分便利になった	
・登山ばかりの過酷ツアーやゆったり過ごすゆるゆるツアーなど特化したツアーの開催	
・IターンよりもUターンの方が帰ってくる確率が高い	
⑦体育協会、文化協会、スポーツクラブ21	
・八木城跡と今滝寺の観光地としての利用	
・養父市ロードレースの参加者を増加するためのアイデアが必要	
・養父市には道の駅但馬蔵くらいしか土産を買える場所がない	
・「ふるさとを愛する人づくり」のリーダー的存在の育成	
・伝統芸能を継承する人材の育成	
・養父市には自然と触れあえる場所が無い	
・公園やプール等の施設を一箇所に集め一体化させる必要がある	
・自然学校でハチ高原に来る都会の小中学生に農業体験させる	
・電車で神戸に行くときのJR播但線の利便性が悪い	
・都会に比べ給料が安くても親と同居すれば家賃や駐車場代もタダでさらに近所から野菜ももらえる	
・但馬にはスキーや海等レジャーできる場所が近くにある	
⑧日の出通商㈱食品カンパニー但馬醸造所	
・大屋は常に知った顔ばかりということが、いい点でもあり悪い点でもあるが住み心地はいい（市外からの定住者）	
・ビッグ・ラボのお客さんが次に観光できる施設があればいい（自然を活かした遊べる場所）	
・但馬には趣味としてできることがたくさんある（釣り、キャンプ、ウインタースポーツ等）	
・Uターンは帰ってくる理由があるが、Iターンは初めて暮らすこになるのでUターン者より優遇してはどうか	
・Iターンで田舎暮らしに興味があるので、併せて農業や空き家の施策にも力をいれる	
⑨子育てサロンそよ風	
―	

「交流と定住」意見一覧

⑩介護予防サポーターようか	
・空き家バンクを活用すべき	
・長い間都会暮らしすると田舎に住みにくく感じると思う（地域のしがらみ、近隣住民からの干渉、田舎の閉鎖的思考等）	
・伝統行事の存続（市内から引っ越してきた人で地区活動に積極的に取り組む若い人もいる）	
・次世代交流をすべき	
・グンゼ跡地を活用すべき（安全に遊べる公園等）	
・ふるさと納税で特産品をあげているが、養父市田舎暮らし体験2泊3日宿泊券のような企画をし、養父市の良さを知ってもらいUIターンにつなげる	
⑪若手農業者（5Hやぶ＋若手認定農業者）	
報告書作成中	
⑫養父市商工会	
・朝来市は朝ドラの誘致に力をいれているが、養父市でも「青溪書院」や「上垣守国」など朝ドラ誘致の題材があるので力をいれるべき	
⑬（一社）やぶ市観光協会	
・夕張市を参考に若者と高齢者が一緒に暮らす住宅施策	
・養父市においても新しいまち（ニュータウン構想）づくりを考える	
・私的には空き家や古民家を見ても住みたいとは思えないので、改修後の古民家物件を見学し検討してもらう	
・市営住宅の家賃を安く設定し、低所得者の移住を視野に考える	
・都会の人がUIターンしてこない理由として、区の負担金や付き合いの重荷やしきたりのわずらわしさがあると思う	
・移住定住を進める中、受け入れ側の体制（地元の住民姿勢等）をつくる	
・養父市のキャッチコピー	
①養父市の2040年の推計人口は17,000人　⇒　「豊かな17,000人になる街」	
②養父市に移住しスキー場で支配人を任され、地元住民と共に自分が成長できた経験より	
⇒　「支配人修行するなら日本一しやすい養父市」	
③特区に絡めたキャッチコピー　⇒　「農業デビューするなら日本一しやすい養父市」	
④「働くのは朝来市、豊岡市でも住むなら養父市、産み育てるなら養父市」	
⑭養父市商工会青年部	
意見交換会未	

「安心・安全」意見一覧

①養父市いずみ会	
・グンゼ跡地の利用	
・災害時の避難場所は確保されているか	
・公民館教室などイベントで人気のあるようなものはそれなりの定員にしてほしい	
②養父市選挙管理委員会	
・広谷地区の住人は増えたが不安もある（若者の深夜徘回・挨拶しない）	
③精神保健ボランティアグループ	
・高齢者にとっては交通問題は深刻であるが、若い人にとっては今はそこまでの認識はない	
・ある地区の老人会では月に2回買物ボランティアを実施	
・誇りを持てる養父市にするために年長者が頑張っている姿（熟年パワー）を若者に示し発奮させる	
④子育て広場　たんぽぽ（関宮）	
・家賃補助制度を知らなかったので知る機会の充実を	
・市役所の便利な情報が届きにくいので上手く情報発信を	
・養父市の伝統行事の継承者不足	
・八鹿病院の窓口には必要な情報を掲示しているので、診療所も同じようにすればいい	
・市役所でもスマホ（ライン）を活用した情報発信ができないか	
⑤公立八鹿病院	
・若者対策だけではなく高齢者にも目をむける	
・市の施策で知らないことがたくさんある	
・耕作放棄地にヤギを放す	
・山の倒木が目立つが都会の若者がレジャー感覚で手入れしてくれないか	
⑥保育園、幼児センター、こども園、小中学校の保護者	
・そうあんくんの日をつくり、大河ドラマを誘致する	
・子どもが高熱を出した時に八鹿病院にいったが、豊岡病院に搬送された	
・市民は行政に頼りっぱなしにならないようにする	
・合併して10年以上経つがまだ旧町の垣根がある	
・高齢者と若い世代との交流の場や若者を支援する場があればいい	
⑦体育協会、文化協会、スポーツクラブ21	
・養父市には図書館がないのでペアを活用してできないか	
・図書館を建設することはすぐには無理だと思うが、なんとか朝来市の図書館を利用することはできないか	
・養父市の防災面や住みやすさやインフラ整備など各順位の把握をし数値化するべき	
⑧日の出通商㈱食品カンパニー但馬醸造所	
・都会から嫁いだ人からみれば、近所との距離感がない（親しみがある）と感じるが、地元の人は全てではないが煩わしいと思う一面もある	
・若者に人気の芸能人のイベントを開催すれば、友人ができたり知人に再開できるのではないか	
⑨子育てサロンそよ風	
・市役所の情報収集はHPでしているが、内容が表示されてなく使いにくい（携帯でもスマホと旧型携帯電話で表示が違う）	
・若い人が住みやすくなるためにはどうなればいいか考えるべき（病院の選択・ショッピングモール・おしゃれな店）	
⑩介護予防サポーターようか	
・医療関係機関の充実	
・道の駅の後に高速道路ができるなど「ちぐはぐ」している気がするので、もっと先を見据えて考えてほしい	
・一昔前よりも近隣住民との関わりが薄い	
・高齢者と子どもが集える場がない	
・屋外でも休憩できる場がほしい	
・噴水や砂場がある場所	
・まずは市民が養父市を愛することから始める	

「安心・安全」意見一覧

⑪若手農業者（5Hやぶ＋若手認定農業者）	
報告書作成中	
⑫養父市商工会	
―	
⑬（一社）やぶ市観光協会	
・八鹿病院の患者受け入れ体制の低下	
・ハチ高原や熊次地区の民宿業者は林間学校等で多くの小中学校の生徒を受け入れているが、保護者からは養父市には救急医療がないことが不安という声があり、合宿地を変更されないか懸念される	
・市の優位性を施策に反映し集中的に投資する	
⑭養父市商工会青年部	
意見交換会未	

「しごと（雇用・産業）」意見一覧

①養父市いずみ会	
・政府の減反政策があってから田が荒れたと思う	
・生産物に高付加価値をつけて売る仕組みづくり	
・農地の維持管理が大変	
・但馬農高で農業の専門知識を得た人材が市外へ流出してしまっている	
②養父市選挙管理委員会	
・働く場が必要だが職種がない	
・公務員、金融機関の職員も減少し採用がない	
・特区を利用し付加価値のある農産物をつくる	
・知人が新しく農業を始めたが草取りが大変すぎてやめた	
・農業を続けるには達成感が必要	
③精神保健ボランティアグループ	
・農業特区の企業参入により雇用増に期待	
④子育て広場　たんぽぽ（関宮）	
・子育て中の母親は9時～15時が働ける時間だが雇用がない	
⑤公立八鹿病院	
―	
⑥保育園、幼児センター、こども園、小中学校の保護者	
・本気で農業する人のために農業大学の設置	
・UIターン者を受け入れる企業への助成	
⑦体育協会、文化協会、スポーツクラブ21	
・安定した雇用の創出	
・大屋有機農業の学校にはいり、農業をしてみると今までは大変としか思わなかったが今は楽しいし癒される	
・有機農業を活かし耕作放棄地を利用した特別な農業	
・養父市に企業ができるようにUIターン者10人くらい集めて農業以外で働ける場をつくる仕組みづくり	
・働く場の問題は但馬全域で取り組む	
・養父市内の建設業は求人しても人が来ない	
・特区を活かして林業に力をいれ雇用につなげる	
⑧日の出通商㈱食品カンパニー但馬醸造所	
―	
⑨子育てサロンそよ風	
―	
⑩介護予防サポーターようか	
・都会に比べ働く場が少なく賃金も低めで経済的不安がある	
・若い人が働きたい職種や資格を活かせる場がない	
・特区効果で企業が野菜を栽培しているが、値段が高いので少量のお試しパックを安くで販売してほしい	
⑪若手農業者（5Hやぶ＋若手認定農業者）	
報告書作成中	

「しごと（雇用・産業）」意見一覧

⑫養父市商工会	
・特区により事業者が養父市に参入してきているが、大企業は採算が合わなければ事業撤退も早く地元への影響がないか心配	
・特区について地元商工業者は、農業のノウハウがなく動きづらいので、市役所が資金力やノウハウがある大手企業との間にはいり連携できるようにしてほしい	
・最近の養父市は特区指定や新聞の全国版での紙面掲載等とても元気があるので、この機会を活かしグンゼ跡地の空きスペースや道の駅を利用して特産品の産直イベントなど行ってはどうか	
・朝倉山椒の取り組みに期待しているが、今後生産拡大した時の収穫作業で短期雇用等の労働力を確保できるのか懸念される	
・特区で農業の企業化を進める中で、企業は販路や経営を拡大し農業者は生産を拡大するが最終的には企業だけが伸びる危険性があるのではないか懸念される	
⑬（一社）やぶ市観光協会	
・スキー場の従業員は冬に必要で夏は不要となるが、雇用のピークがずれている点を人材活用に工夫する	
・事業者が求人広告をだしても応募がなく人材確保に苦労している	
・但馬楽座では、地元高校生の就労体験の場として提供しており、将来的には「高校生レストラン」を開店させたい	
⑭養父市商工会青年部	
意見交換会未	

タウンミーティング「結婚と子育て」意見一覧

【出会いの場・婚活】	
・縁結び制度をつくっているが、市役所に専門担当員配置するほうが有効ではないか	
・婚活支援は社協・シルバー人材センターとの連携	
・婚活バスツアー	
・テレビの婚活番組への応募	
・職場や地域での結婚世話人がいない	
・出会いの場づくりは但馬全体で取り組むべき	
・昔あった青年団組織を復活させ、若者が集い情報交換できる場をつくる	
【結婚】	
・結婚祝い金の復活	
・働く場がなく経済的不安から結婚しない	
【妊娠・出産】	
・結婚しても経済的理由で1人しか出産しない	
・マタニティハラスメント	
・妊娠・出産・育児に父親が参加できる環境・職場づくりを目指し「子育て特区」に取り組む	
・安心して出産できる医療体制づくり	
・市は20代、30代の独身者の数を把握しているのか	
【子育て・教育】	
・子どもたちに市内にどんな会社があるか教える	
・学校給食に地元食材を使用し地産地消に取り組む	
・子ども数が減少していく中、少人数を逆に利用して特色ある教育を行う	
・養父市の子育て施策は他市に比べ充実しているのでもっとPRするべき	
・子育て支援の目玉となる取り組みの実施	
・地域に幼・保施設があるのとないのではイメージが大きく違う	
・子どもたちが雨でも安心安全に遊べる奥内施設⇒旧八鹿幼稚園の活用	
・自然を活かした教育や子育ての環境づくりとして「田んぼの幼稚園」の取り組み	
・交通網の整備により母親と子どもは子育て期間養父市に暮らし、父親は週末に来て家族で過ごす	
・PTAの役員が重荷なので廃止できないか	
・子どもが村岡高校に通っているが、休日の全但バスの運行時刻が不便なので変更できないか	
・公営住宅のない地区で地元に住める仕組みを考えてほしい	
・若者が何を必要としているかのアンケートを実施	
・男性の育児休暇	
・「育じい・育ばあ」の孫たちとの集い	
【環境づくり】	
・養護施設の生徒や幼児センターの園児がイベントへの参加をするために移動が必要な時にバスなど市の支援がほしい	
・他市からの移住者をふやすには、結婚・育児・保育・手当・住宅にポイントを置いた施策	
・市役所職員が負担し段階的に出産祝い金をだす （海士町例：1人目10万・2人目20万・3人目50万・4人目100万）	
・都会にでた若い世代を養父市に帰らせるためには官・民・学が連携しタイミングを合わせた取り組みが必要	
・中心部から離れた地区に新築した場合の補助（固定資産税免除等）	
・高齢者を一時的だけでも介護施設に入所できないか	
・医療施設の子どもの一時保育	

タウンミーティング「結婚と子育て」意見一覧

【教育】	
・ふるさとへの愛着	
・ふるさと教育の醸成（家族・地域が一体となって）	
・池田草庵生誕の地として養父市を教育のまちとしてPR	
・今の教育は高校卒業後の片道切符	
・大学進学の条件付き奨学金制度	
・大学誘致	
・但馬一丸となった取組み（近大豊岡短期大学の4年生・但馬農高に林業課設置）	
・但馬農高生が卒業後にぜひ農林畜産業に関わってほしい	
【その他】	
・タウンミーティング以外でも高校生等の意見もきく	
・作成過程から情報公開を含め市民にわかりやすくする	

タウンミーティング「交流と定住」意見一覧

【住宅施策・奨励制度等】	
・UIターン者がほ場整備地に家を建てやすくする（農地転用）	
・UIターン者に農地も含め空き家を格安で売却	
・UIターン者への補助制度を分かりやすくPR	
・新築助成金はあるか⇒ある	
・若者定住助成金をスムーズにする（3年かかるため）	
・Iターンはコストがかかり効率が悪い。Uターンが効果的で「帰ってこいコール」など声かけ運動を展開	
・UIターン者へ養父市のいいところ・悪いところをなりふり構わずアピール	
・UIターン者から養父市に移住した決めてとなった意見をきく	
・旧4町単位でUターン者の人数を競う	
・シティプロモーションに力をいれ魅力あるキャッチフレーズをつくる	
・未就学世帯をターゲットに養父市に移住させる	
・孫ターンに注視し、祖父母が孫に養父市の良さを伝え続ける	
・里親制度	
・子育てで幼い頃から故郷に帰ってくることを言いきかす	
・高学歴者の働く場が田舎にはない	
【交流人口】	
・養父神社の観光人口増につなげるためのインフラ整備	
・女性をターゲットにした「観て食べて体験する観光プラン」	
・八鹿駅前の時間を潰す（食事・休憩）施設等の整備	
・国宝となった名草神社をPR	
・鹿を活かした観光で鵜飼いならぬ「鹿飼い、鹿牧場等」	
・山が多いことを活かしたトレッキングコースの整備	
・全但バスと協力し市内を小型バスやタクシーで小グル―プの観光コースを検討し、県内の大学生をターゲットにパンフレットを配布	
・市内の観光施設（天滝・大桜等）客がお金を落とす仕組み	
・氷ノ山へ観光用リフトの設置	
・ハチ高原の「ウスイロヒョウモンモドキ」「オオムラサキ」	
・高丸山の頂上が浸食されているので石を置いて保全	
・氷ノ山にもヤマビルが発生しているので登山道の木を伐採し日当たりをよくする	
・氷ノ山の兵庫県側の登山ポイントがわかる道標が朽ちている（防災ヘリ出動時に確認できない）	
・地域おこし協力隊を活用した情報発信	
・豊岡・朝来市は外国人を雇い海外へ情報発信している	
・浅間寺の仏像や彫刻など埋もれた観光資源の発掘	
・杉ケ沢高原（大根畑）を活用（インフラ整備が必要）	
・遊休農地を観光農園や貸し農園で活用し都会との交流につなげる	
・人手不足で祭りの御神輿が出せなるので都会からボランティアを募り参加してもらう	
【その他】	
・天文館バルーンようかは県内でも誇れる施設	
・地域の大人の思いやる気持ちがかけている	
・地域のコミュニティを醸成	
・氷ノ山の氷河期から生息するミツガシワ	
・ふるさと納税で養父市の特産品を広くPR	
・親子で参加できる博物館や自然中心の書籍を集めた図書館	
・市内で行われている遺跡調査の一般公開	
・養父市の偉人のドラマ化に向けてのPR	
・市のHPを外国人向けに外国語表記（東南アジア）でPR	
・養父市はイベントのPRが下手（都会の人のニーズを意識する）	

タウンミーティング「安心・安全」意見一覧

【PR】	
・養父市の健康課職員の取り組みはすばらしい	
・区で空き家解体や植木の手入れ・草刈り等行う計画（費用はシルバーの半額）	
・養父市はコンパクトシティは考えているのか	
・養父市は長寿の町としてPR	
・養父市は地盤強固（安全なまち）⇒太平洋側の市町村と防災連携や人の受け入れをしてはどうか	
・老若男女が集える哲学カフェ	
・高齢者がすみやすいまちとして全国から老人を集める	
・情報弱者へのよりよい情報発信	
・地域の人への地元を活かすための研修	
・全国住みよさランキング13位の養父市をもっとPR	
【居住・空き家】	
・旅行者が空き家に宿泊できる仕組み	
・空き家に1年間程試験的に住む（ちょこっと暮らし）	
・空き家を市が解体し分譲地にする	
・空き家を地域の人が集える場として活用	
・自分の区の空き家に住んだり、親と同居する子どもへの支援	
・次男、三男が地域の空き家に住むことに目をむける	
・定年後の農業UIターン者が空き家を活用	
【交通】	
・交通弱者を善意で病院や買物に運ぶ仕組み	
・交通事故多発箇所の改修	
【医療・福祉】	
・八鹿病院の存続維持	
・精神疾患患者の施設を整備	
・大谷診療所が閉鎖するが週一日でいいので診療してほしい	
・認知症対策の強化による人口増	
【教育】	
・学校の統廃合による教育環境の悪化	
・給食費無料など他市にない制度	

タウンミーティング「しごと（雇用・産業）」意見一覧

【企業誘致・住宅誘致等】	
・市長のトップセールスによる企業誘致に期待	
・自衛隊の誘致⇒（インフラ整備・人口増・税収増・雇用）	
・大企業の本社が地方移転する動きがるので、特区を活かした誘致をしてはどうか	
・三田市のような大ニュータウン「そうあんの丘」	
【政策など】	
・養父市内の今ある企業が撤退しないよう努力する	
・田舎は賃金が安いことが問題	
・雇用の場を市内だけではなく但馬全体で考える	
・農林業に対しての補助金がない	
・新規就農者にばかり目を向けず、既存農家も大事にする	
・地元の仕事は地元でし、それによって雇用も増える	
・全国的に山椒のまちでうりだす	
・トライやるウィークで中学生に山椒摘みをしてもらう	
・養父市は正規雇用の割合の統計をとっているのか	
・養父市も国のように企業にベースアップをお願いしてもらいたい	
・養父市は但馬牛の取り組みが上手にPRできていない	
・市民の生活には、仕事・観光・農業の3拍子が必要	
・土地の流動性が高まると企業や人が入りやすい環境ができる	
・養父市には働きたい仕事がないので子どもが帰ってこない	
・農業の担い手を受け入れているが、技術育成ができていないので市の支援が必要	
・農産物の規格外商品を市内だけにでも流通させる仕組み	
・大学と連携した地域調査を実施し、雇用に繋がる研究をしてもらう	
【農業】	
・農業と仕事ができる環境	
・農業は採算があわない	
・ほ場整備の水田を畑としてニンニク等を栽培	
・畜産（但馬牛）農家の減少の理由は仕事環境・公害・施設投資がかさむ事等　複数事業者で団地化すれば雇用にもつながる	
・新規就農者離れしている中、同じ特区の新潟市は雇用労働相談センターを開設し、事前に相談できる	
・有機農業に取り組むがうまくいかないのでマニュアル化する	
・お茶を栽培し産地化	
【林業】	
・バイオマス発電の熱利用をし、生涯住める大規模な高級老人ホーム	
・林業の集積団地をつくり、併せて大規模なバイオマスス発電施設の建設	
・林業と観光を活かすには道路整備が必要（県・市・林道）	
・林業と観光への取り組みで「林業大学校」	
【商工業】	
・大屋の支援工場の償還が終われば、経営者に譲れないか	
・養父市は地盤強固なので精密機械工場やソフトウェア会社の誘致	
・ハチ高原の土地を活かし太陽光発電の基地を設置し広域化した事業に取り組む	
・都市部からきたスキー場の冬期労働者をシーズン終終後も継続して就労し住める制度をつくる	
・通信インフラ整備が進んでいるのでIT企業の誘致	
・多くの市民は大手店舗で買い物するが地元で循環できる仕組みづくり	
・たくさんの小さな企業育成が税収アップの近道	

タウンミーティング「しごと（雇用・産業）」意見一覧

【医療・健康福祉】	
・介護施設が一杯になり介護職員は減る中、養父市解決案を考えているのか	
・企業誘致は後にして、介護施設の整備を進めた方が高齢者も安心して暮らせ、雇用もうまれる	
・介護職場が3K職場といわれる中、人材・確保・育成のため小中学校教育に取り入れる（トライやるウィーク・福祉のため小中学校教育に取り入れる（トライやるウィー	
教育など）	
・廃校の空き教室を活用したデイサービス事業	
【その他】	
・特区の生産物等の販売・流通を企業に任せるのではなく地元商工会などを活用し情報共有を強化	